

## 川崎医科大学 一般選抜

## 小論文

本年度の小論文は外山滋比古『知的創造のヒント』から出題された。

『知的創造のヒント』は 1977 年に出版され、ベストセラーとなり小論文の第 I 次ブームとなった。古い本だが 2008 年に再度出版されている。2020 年 96 歳で亡くなった英文学者、研究者、エッセイスト。最後の項に外山滋比古出題校と年度、その他頻出の著者について少し触れておくので参考にしてほしい。

① さて今回の課題であるが、設問から見よう。

問 次の文を読み、下線部について、本文全体の主張を踏まえた上で、あなたはどのように考えるか 800 字以内で述べなさい。

小論文の論述において大事なことは、設問要求にこたえることである。

- ・下線部についてどう考えるか。
- ・ただし、本文全体の主張を踏まえた上で。

下線部の説明をせよという指示はない。北里大学や一昨年までの聖マリアンナ医科大学では、独立した設問で説明が求められていることもある。先に説明した上で、「……について意見を述べよ」という条件がついて場合もある。

それらの指示がないので構成と構想の自由度が高い。また、下線部の説明を一手間を省くことも出来るし、逆に自分なりに解釈したことから書き始めてもよい。

② では本文全体の読解をしていこう。

- ・第 1 段落目は論の方向性が示されているのでしっかりと読むこと。

冒頭文は「われわれはめいめいそれほど違ったことをしているのではない」とあり、続けて古い本らしく「ほとんどの人が新聞を読んでいるが」とある。みなのが日常生活が似ていると言いたいらしい。

冒頭のこの「殆ど違いは無いのに」から、ずっと飛ばしてしまって、段落後半の「それなのに、個人によって、ものの見方、考え方が大きく違っている。」をつないでおく。(できたら鉛筆で結んでおく)

- ・するとこの次の文もまた「生活の要素はあまり違わないのに、まとまった全体の結果はひどく違うのである。」と同じようなことが書いてあることに気づくだろう。

- ・そこで、最後の文に先ほどの一部を代入して

「生活の要素はあまり違わないが、個人によってものの見方や考え方は大きく違い、全体の結果は大きく違う」くらいにまとめてしまう。

- ・2、3 段落は編集者の話である。受け取る原稿が同じでも、編集者によって、地味な誌面になったり、経験と勘で面白そうに輝くものを創造できる人もいるとある。また、ここから繰り返して来る「エディターシップ」はしっかり読みこむこと。

・4 段落からは、われわれもまた 1 日、1 月、1 年の雑誌を編集しているという話。そして、「一生かかって、きわめて複雑で大きな雑誌を編集しているのだとも言える」と言いたいらしい。だんだん、編集者ではなく、小論文を書くあなたへのメッセージになっていく。(と受け止めること)

・6 段落では、「自分では新しいことをしなかったと思っても、知らず知らず人生を編集することで、りっぱな創造をしている。」とあり、そのことに気づいているかどうかだと書いてある。

つまり、本人が気づいていなくても、誰もが日々新しい一日を紡いで自分の一生を編集しているのであり、また気づいて生きていくのも良いのではないかと解釈しても良いと思われる。

・ここで「創造」という突然出てきて繰り返される言葉はチェックしておくこと。

また、小論文では好んで出題されやすい言葉であることも意識し、丸で囲むなど見落とさないようにしましょう。

・最後の段落では、読書から得られる優れた思想や新しい知識は自分のものにするのは模倣ではなく目には見えない二次的創造である。そして、最後の傍線の引かれた文では「われわれは自覚しないところでずいぶん創造的なのである」で結ばれている。

③ ・ここまでをまとめると、「他の人と同じような生活を送り、自分自身の日々も代わり映えしないと思っているかもしれないが、ものの見方や感じ方は異なっており、一生をかけて自分という雑誌を編集し続けているがそのことに気づかない人もいる。加えて、読書によって得た思想や知識を自分に取り入れるのは模倣ではなく見えない二次的創造と言える。このように、われわれは、自覚してはいないが随分創造的に生きているのである。」となる。

・2 段落目から「エディターシップ」ということばがでてきて「理屈はわからなくても老練な編集者なら効果を勘で知っている」とある。そして、われわれも 1 日の中で他者の影響や干渉を受けているけれど、ちゃんと独創的、个性的に順序立てて 1 日の中に収めるエディターシップがあり、他人とは違う 1 日をすごしているとある。あえて②ではこの部分には触れなかったのだが、これを自分の構想のヒントに使うとよいのではないか。

④ 800 字なので 4 段落構成で構想・構成メモをフリーハンドで作成する。

そして、③をいかして序論に使う。800 字だから 200 字以内でまとめるのは許容されるのではないか。序論の最後にこれから論じていきたいこと、中心となることを 1 文つけておくと論の方向性がわかりやすい。

序 論：③を参考にして全体のまとめを書くとき時間と文字数がはかどる。例えば「本文においては筆者は創造的な生き方について次のように述べている。」と書いて、下線部を意識したまとめを書く。そして段落の最後に、これから自分が言いたいこと、論の方向性を①文つけておく。

本論(一)：③を参考にして身近な他者と自分の違いを振り返る。

自分の一生はまだまだ始まったばかりだが、たしかに同じ地域・家庭・学校で生きてきても影響を受けはするが、違う人間に育っている。また、平凡だつまらない退屈だと思えることもあるが、同じ道を一緒に歩く友人と違う所を見ていたり、同じ夕日を見ていても感想は違ったり。お互いに違っている。

本論(二)：二次的創造エディターシップに展開していく。

日常においても互いに違いを認め合い、そこから他者のよいところを自分のものにする。また筆者が述べていたように先人の考えや経験を自分の行動やものの見方に取り入れてみる柔軟性、あるいは興味を持ったことを探究するなど、自分で自分を創造していくことも、日々、あるいは1年ごとの編集につながるのではないかな。

**結論:**誰もが一生をかけて人生の雑誌を創造し編集していくのだろう。だが、災害や病気など辛いことや不運にみまわれることもあるだろう。その時は逆に一日一日の編集を大切にすることがほしい。私は医療者を目指しているので、自身と患者さんの雑誌を共に編集していく老練な編集者になれるよう、知識と経験を積み重ねていきたい。

これではまだ序論を入れても800字には足りないのでもう少し自分の具体的な体験や、他者の例、見えない二次的創造体験例、医療について触れているがこれを本論から書いていってもよい。あるいは、全く触れなくてもかまわない。

800字なので、③をしっかりと素早く読み取ることが大切である。読解力と解釈料をつけておこう。今回はすでに提出し終わっているけれど、他校対策のためにも再度設問と資料文を読み返してみよう。

#### 最後に外山滋比古と今後の練習について

外山滋比古の著作はこれまでも複数の医学部で出題されてきた。

『思考の生理学』(1983年):産業医科大学(2018)、北里大学(2021)、獨協医科大学(2021)

『本物のおとな論 人生を豊かにする作法』(2016年):自治医科大学(2019)

他に『考える「あたま」の作り方』等からも出題されている。

ということで、他大学の過去問にも目を通し、頻出の本や著者のものは過去問を読んでおく等の対策も役に立つ。

今後も受験するであろうから、例えば養老孟司は北里や、獨協では2年続けて出題されており、また内田樹、森博嗣、大御所の鷲田清一、河合隼雄、日野原重明なども頻出なので、赤本などで探して資料文を読解・解釈してみるなどをおすすめする。



メルマガ登録(無料)またはLINE公式アカウント友だち登録(無料)で全教科閲覧できます!  
メルマガ登録は左のQRコードから、LINE友達登録は右のQRコードから行えます。



<b>渋谷校</b> ☎ 0120-142-760 東京都渋谷区桜丘町 6-2	<b>名古屋校</b> ☎ 0120-148-959 名古屋市市中村区名駅 2-41-5 CK20名駅前ビル 2F	<b>大阪校</b> ☎ 0120-142-767 大阪府吹田市広芝町 4-3-4 江坂第1ビル 3F
個別専門館 <b>麴町校</b> TEL: 050-1809-4751 東京都千代田区二番町 8-20	<b>ビッグバン京都校</b> TEL: 075-746-4985 京都市下京区下諏訪町 360	<b>医特塾 阿佐谷本校</b> TEL: 03-6279-9927 東京都杉並区阿佐谷南 3-37-2 第二大同ビル 2F